近世22.6-05-001A

宝暦九年

卯壬七月廿八日

風雨注進

るとのあらけハてあめ五月さとぬさでのるゝ〜ぬいろくのあて
ひとそめ山のこまでとまり山気のいさづさにくんやるれひそとそれハさう
天海でゝ
早いハ三海ゞ豆
但ゝでゝ
雪崩長ゝ出人
物りゝ海ゝ分
切り作物と
おろかのさえんへ行ものだんづけ
おりのあさわひとあやうぶしのさうで
ぬいのよめぬむひのうちさたん
のろづをまろかさうでそのうさうで

口上

一此度〜熊内へ落分切こ出ちゝそ日数十日
ゞ弓仕ゝ云ゝ元組仕ゝ形合ゝ蓋成芸ゝ拾後
者ゝ長崎ゝ万ゝ御ゝ浮ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ社
ゝ〜ゝ仕組ゝ家ゝ祭ゝ義ゝ起ゝ成蓋ゝ
傾ゝ出ゝ毎ゝ夜ゝ〜ゝ目ゝ掛ゝ中ゝ〜ゝ〜ゝ前ゝ
拵ゝ方ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ付ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝゝ年ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

吉祥日

東京大学文学部・人文社会系研究科
Universiry of Tokyo Faculty of Letters / Graduate School of Humanities and Sociology
東京大学文学部・人文社会系研究科
Universiry of Tokyo Faculty of Letters / Graduate School of Humanities and Sociology